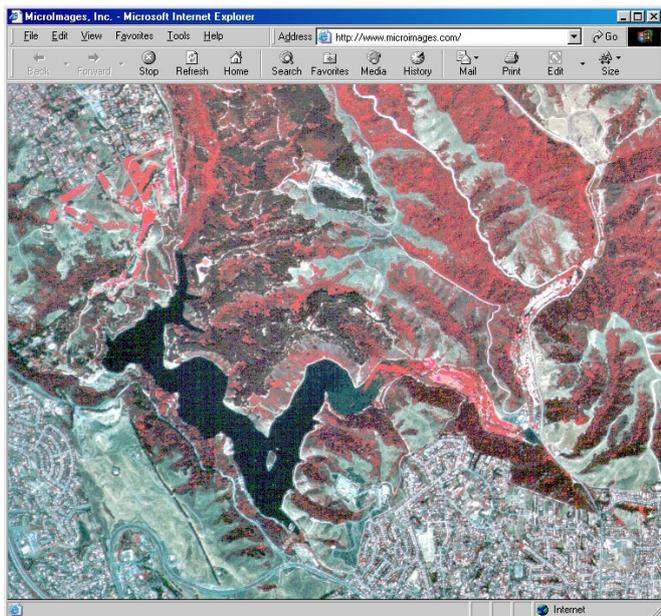


JPEG2000：損失ありか損失なしか？

JP2 圧縮はウェーブレット技術に基づいており、高い画像の忠実性を維持しつつ、非常に高い圧縮率をもたらします。画像処理や解析用にそのままのセル値を保持しなければならないデータに対しては、JP2 の損失無し圧縮を使用して下さい。正確なセル値を必要としない処理に対しては、適当なレベルの JP2 損失あり圧縮を選択することでファイルサイズをかなり減らすことができます。

損失あり JPEG2000

JP2 損失あり圧縮は、画像を可視化、ポスターやレイアウト、オンライン地図、そのほかの表示・地図出版に使う場合、ストレージやメモリ容量の節約ができます。



損失あり JPEG2000 が適した処理：

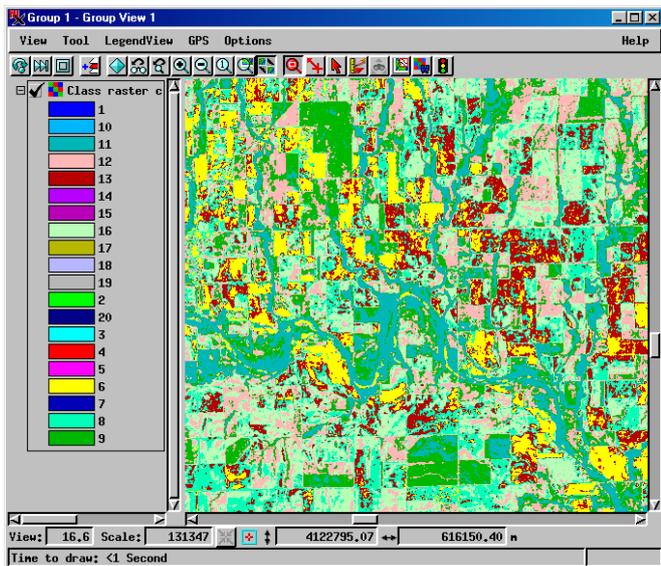
- 表示・可視化
- 地図レイアウト
- プロジェクトや報告書の図
- ポスター
- 地図や画像の印刷
- 3D シミュレーション (TNTsim3D の地表面やテクスチャ)
- Web 配信
- CD に入れる TNTAtlas
- 低品質のデータ (ビデオのキャプチャーなど)

web 上の画像、特に等倍以上に拡大して表示しないものであれば JP2 でより小さくでき、ネット上での転送も早くなります。JP2 を表示可能にする無料のブラウザプラグインが以下で入手できます。

http://194.231.34.35/products/download/index_e.html

損失なし JPEG2000

画像処理や解析用に正確なセル値を保持する必要があるプロジェクトデータについては、JP2 損失なし圧縮や他の損失なしフォーマット (マイクロイメージのプロジェクトファイルのラスタオブジェクトのような) を使って下さい。



損失あり JPEG2000 は次のようなコンピュータ画像処理のデータには適しません：

- 地表面解析 (等高線の作成)
- 標高解析 (流水、流路、地形特徴点)
- 画像処理
- マルチスペクトル画像分類
- ハイパースペクトル解析
- 多重線形回帰、主成分、プログレッシブ変換
- 調和級数解析

この図の分類ラスタは 5 バンドの衛星画像より作られました。このような結果やソース画像バンドは、いかなるレベルでも損失あり圧縮をするべきではありません。